

経営比較分析表

宮城県 川崎町

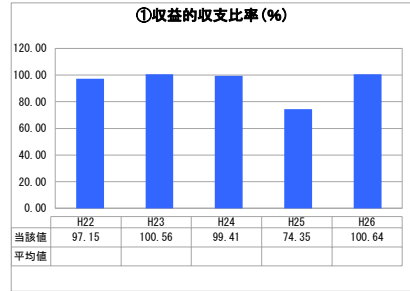
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd2	
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	64.49	90.12	3,387

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
9,442	270.77	34.87
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
6,045	4.29	1,409.09

グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 【】 平成26年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



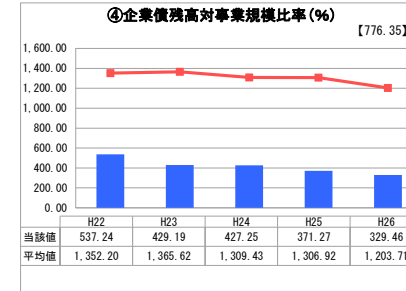
「単年度の収支」



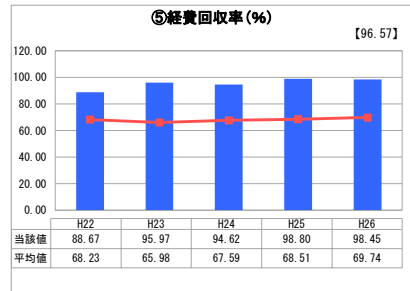
「累積欠損」



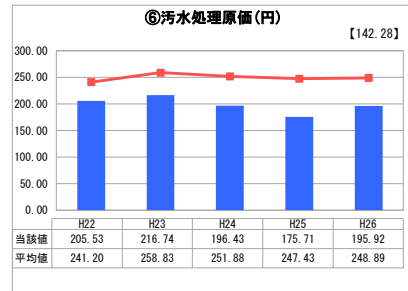
「支払能力」



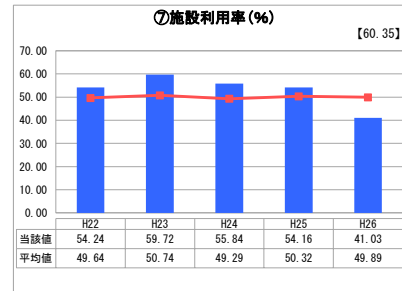
「債務残高」



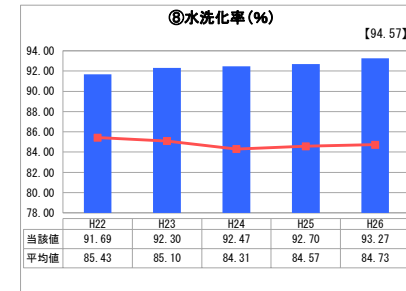
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

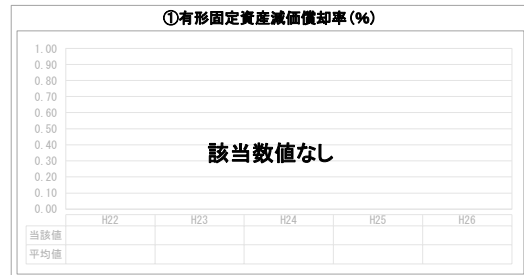


「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

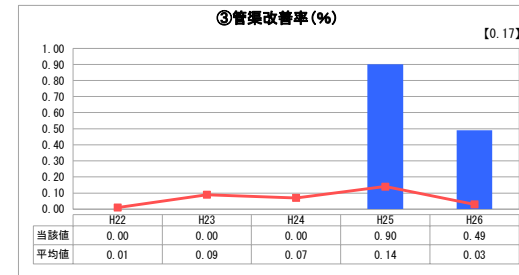
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析概

1. 経営の健全性・効率性について

○収益的収支比率
平成26年度は100%を超えているものの、企業債償還金の財源は、ほぼ一般会計からの繰入金に頼っている状況である。平成28年度より運転管理業務委託の範囲を拡大しトータルコストの削減を進めているところである。

○企業債残高対事業規模比率
借入金の残高は年々減少し、類似団体の平均より低い状況だが、平成26年度から老朽化設備の更新を進めており、今後は借入額の増加が想定される。

○経費回収率
平成22年度の使用料改定以降、100%に近い水準を維持している。今後も使用料の徴収と汚水処理コスト削減を進めていく。

○施設利用率
類似団体平均と比較し低い水準だが、これは予定していた区域内人口が伸び悩んだことに起因するものである。

○水洗化率
処理区域内の水洗化率は90%を超えており、劇的な向上は見込めないものの、引き続き戸別訪問など水洗化率の向上を図る。

2. 老朽化の状況について

○昭和60年の供用開始以降、定期的な点検や修繕を実施しているが、ほとんどの設備が耐用年数を大幅に過ぎていることから、平成25年3月に「川崎町下水道長寿命化計画」を策定し、計画的に設備の更新を進めている状況である。機能停止等の未然防止を図ると共に、限られた財源の中でライフサイクルコストの最小化を図っている。

全体総括

当町の下水道事業は供用開始から30年が経過しており、老朽化が進む設備の更新が直近の課題となっている。計画的に設備更新を進めながら、包括的民間委託の範囲拡大など効率的な運営改善に努めていきたい。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成22年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。